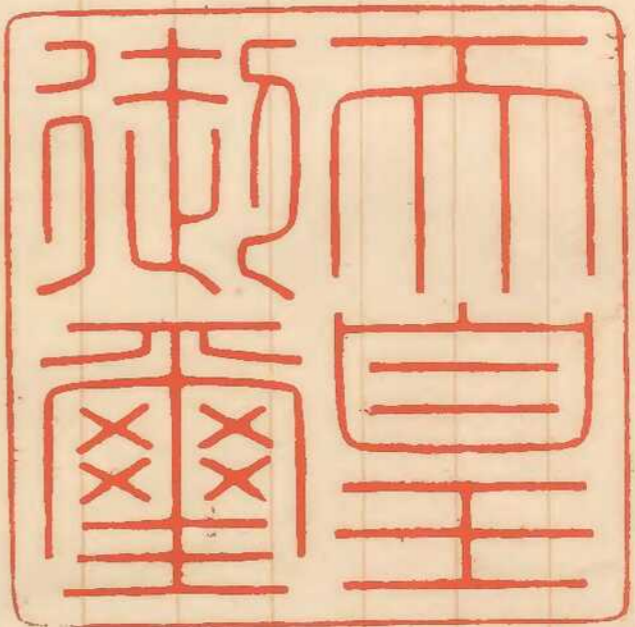


法律第二号

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ議院
法ヲ裁可シ之ヲ公布セシメ
併セテ貴族院及衆議院成立ノ日
ヨリ各本法ニ依リ施行スヘキ
コトヲ命ス



睦仁



明治二十二年二月十日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆
 樞密院議長伯爵伊藤博文
 外務大臣伯爵大隈重信
 海軍大臣伯爵西鄉從道
 農商務大臣伯爵井上馨
 司法大臣伯爵山田顯義
 大藏大臣伯爵松方正義
 陸軍大臣伯爵大山巖
 文部大臣伯爵森有孝
 遞信大臣子爵榎本武揚

法律第二號

議院法

第一章 帝國議會ノ召集成立及開會

第一條

帝國議會召集ノ勅諭ハ集會ノ期日ヲ定メ
少クトモ四十日前ニ之ヲ發布スヘシ

第二條

議員ハ召集ノ勅諭ニ指定シタル期日ニ於
テ各議院ノ會堂ニ集會スヘシ

第三條

衆議院ノ議長副議長ハ其ノ院ニ於テ各三名ノ候補者ヲ選舉セシメ其ノ中ヨリ之ヲ勅任スヘシ
議長副議長ノ勅任セララル、マテハ書記官長議長ノ職務ヲ行フヘシ

第四條

各議院ハ抽籤法ニ依リ總議員ヲ數部ニ分
割シ每部部長一名ヲ部員中ニ於テ互選ス
ヘシ

權
密
院

第五條

兩議院成立シタル後勅命ヲ以テ帝國議會
開會ノ日ヲ定メ兩院議員ヲ貴族院ニ會合
セシメ開院式ヲ行フハシ

權
密
院

樞密院

第六條

前條ノ場合ニ於テ貴族院議長ハ議長ノ職務ヲ行フヘシ

樞密院

權

密

院

第二章 議長書記官及經費

第七條

各議院、議長副議長、各一員トス

權

密

院

憲
法
院

第八條

衆議院ノ議長副議長ノ任期ハ議員ノ任期ニ依ル

憲
法
院

權

密

院

第九條

衆議院、議長副議長辭職又ハ其ノ他ノ事
故ニ由リ闕位トナリタルトキハ繼任者ノ
任期ハ仍前任者ノ任期ニ依ル

權

密

院

議院

第十條

各議院ノ議長ハ其ノ議院ノ秩序ヲ保持シ
議事ヲ整理シ院外ニ對シ議院ヲ代表ス

百五十五

權
密
院

第十一條

議長ハ議會閉會ノ間ニ於テ仍其ノ議院ノ
事務ヲ指揮ス

區
密
院

第十二條

議長ハ常任委員會及特別委員會ニ臨席シ
發言スルコトヲ得但シ表決ノ數ニ預カラ
ス

權

密

院

百
密
院

相續
符
院

第十三條

各議院ニ於テ議長故障アルトキハ副議長
之ヲ代理ス

百五
密
院

第十四條

各議院ニ於テ議長副議長俱ニ故障アルト
キハ假議長ヲ選舉シ議長ノ職務ヲ行ハシ
ムヘシ

相

議

院

第十五條

各議院、議長副議長、任期満限ニ達スル
モ後任者、勅任セラル、マテ、仍其ノ職
務ヲ繼續スヘシ

相
密
院

第十六條

各議院ニ書記官長一人書記官數人ヲ置ク
書記官長ハ勅任トシ書記官ハ奏任トス

第十七條

書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ書記官ノ事務ヲ提理シ公文ニ署名ス
書記官ハ議事録及其ノ他ノ文書案ヲ作り事務ヲ掌理ス
書記官ノ外他ノ必要ナル職員ハ書記官長之ヲ任ス

相
密
院

第十八條
兩議院ノ經費ハ國庫ヨリ之ヲ支出ス

第三章 議長副議長及議員歳費

第十九條

各議院、議長ハ歳費トシテ四千圓副議長
ハ二千圓貴族院ノ被選及勅任議員及衆議
院ノ議員ハ八百圓ヲ受ケ別ニ定ムル所ノ
規則ニ從ヒ旅費ヲ受ク但シ召集ニ應セサ
ル者ハ歳費ヲ受クルコトヲ得ス
議長副議長及議員ハ歳費ヲ辭スルコトヲ
得ス

官吏ニシテ議員タル者ハ歳費ヲ受クルコ

トヲ得ス

第二十五條ノ場合ニ於テハ第一項歳費ノ外議院ノ定ムル所ニ依リ一日五圓ヨリ多カラサル手當ヲ受ク

第四章 委員

第二十條

各議院ノ委員ハ全院委員常任委員及特別委員ノ三類トス

全院委員ハ議院ノ全員ヲ以テ委員ト爲ス

モノトス
常任委員ハ事務ノ必要ニ依リ之ヲ數科ニ分割シ負擔ノ事件ヲ審査スル爲ニ各部ニ於テ同數ノ委員ヲ總議員中ヨリ選舉シ一會期中其ノ任ニ在ルモノトス

特別委員ハ一事件ヲ審査スル爲ニ議院ノ
選舉ヲ以テ特ニ付託ヲ受クルモノトス

第二十一條

全院委員長ハ一會期コトニ開會ノ始ニ於
テ之ヲ選舉ス
常任委員長及特別委員長ハ各委員會ニ於
テ之ヲ互選ス

第二十二條

全院委員會、議院三分、一以上常任委員
會及特別委員會、其、委員半數以上出席
スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコ
トヲ得ス

第二十三條

常任委員會及特別委員會ノ議員ノ外傍聽
ヲ禁ス但シ委員會ノ決議ニ由リ議員ノ傍
聽ヲ禁スルコトヲ得

第二十四條
各委員長ハ委員會ノ經過及結果ヲ議院ニ
報告スヘシ

第二十五條

各議院ハ政府ノ要求ニ依リ又ハ其ノ同意
ヲ經テ議會閉會ノ間委員ヲシテ議案ノ審
査ヲ繼續セシムルコトヲ得

第五章 會議

第二十六條

各議院ノ議長ハ議事日程ヲ定メテ之ヲ議院ニ報告ス

議事日程ハ政府ヨリ提出シタル議案ヲ先ニスハシ但シ他ノ議事緊急ノ場合ニ於テ政府ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條

法律ノ議案ハ三讀會ヲ經テ之ヲ議決スハ
シ但シ政府ノ要求若ハ議員十人以上ノ要
求ニ由リ議院ニ於テ出席議員三分ノ二以
上ノ多數ヲ以テ可決シタルトキハ三讀會
ノ順序ヲ省畧スルコトヲ得

第二十八條

政府ヨリ提出シタル議案ハ委員ノ審査ヲ
經スシテ之ヲ議決スルコトヲ得ス但シ緊
急ノ場合ニ於テ政府ノ要求ニ由ルモハ
此ノ限ニ在ラス

第二十九條

凡テ議案ヲ發議シ及議院ノ會議ニ於テ議
案ニ對シ修正ノ動議ヲ發スルモノハ二十
人以上ノ贊成アルニ非サレハ議題ト爲ス
コトヲ得ス

第三十條

政府ハ何時タリトモ既ニ提出シタル議案
ヲ修正シ又ハ撤回スルコトヲ得

第三十一條

凡テ議案ハ最後ニ議決シタル議院ノ議長ヨリ國務大臣ヲ經由シテ之ヲ奏上スヘシ但シ兩議院ノ一ニ於テ提出シタル議案ニシテ他ノ議院ニ於テ否決シタルトキハ第五十四條第二項ノ規定ニ依ル

相
密
院

百
密
院

第三十二條

兩議院ノ議決ヲ經テ奏上シタル議案ニシ
テ裁可セララル、モノハ次ノ會期マテニ公
布セララルヘシ

相
密
公

百
密
公

第六章 停會閉會

第三十三條

政府ハ何時タリトモ十五日以内ニ於テ議
院ノ停會ヲ命スルコトヲ得
議院停會ノ後再ヒ開會シタルトキハ前會
ノ議事ヲ繼續スヘシ

第三十四條

衆議院ノ解散ニ依リ貴族院ニ停會ヲ命ジ
タル場合ニ於テハ前條第二項ノ例ニ依ラ
ズ

権
密
院

権
密
院

第三十五條

帝國議會閉會ノ場合ニ於テ議案建議請願
ノ議決ニ至ラサルモ、ハ後會ニ繼續セズ
但シ第二十五條ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ
在ラス

第三十六條

閉會ハ勅命ニ由リ兩議院合會ニ於テ之ヲ
舉行スヘシ

和

密

和

第七章 秘密會議

第三十七條

各議院ノ會議ハ左ノ場合ニ於テ公開ヲ停
ムルコトヲ得

- 一 議長又ハ議員十人以上ノ發議ニ由
リ議院之ヲ可決シタルトキ
- 二 政府ヨリ要求ヲ受ケタルトキ

秘密

第三十八條

議長又ハ議員十人以上ヨリ秘密會議ヲ發
議シタルトキハ議長ハ直ニ傍聽人ヲ退去
セシメ討論ヲ用井スシテ可否ノ決ヲ取ル
ヘシ

相

密

院

第三十九條
秘密會議ハ刊行スルコトヲ許サズ

権

密

行

第八章 豫算案ノ議定

第四十條

政府ヨリ豫算案ヲ衆議院ニ提出シタルト
キハ豫算委員ハ其ノ院ニ於テ受取りタル
日ヨリ十五日以内ニ審査ヲ終リ議院ニ報
告スヘシ

第四十一條

豫算案ニ就キ議院ノ會議ニ於テ修正ノ動
議ヲ發スルモハ三十人以上ノ賛成アル
ニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

相

行

記

第九章 國務大臣及政府委員

第四十二條

國務大臣及政府委員ノ發言ハ何時タリト
モ之ヲ許スヘシ但シ之カ爲ニ議員ノ演說
ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第四十三條

議院ニ於テ議案ヲ委員ニ付シタルトキハ
國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ委員
會ニ出席シ意見ヲ述ルコトヲ得

第四十四條

委員會ハ議長ヲ經由シテ政府委員ノ説明ヲ求ムルコトヲ得

相
密
B

第四十五條

國務大臣及政府委員ハ議員タル者ヲ除ク
外議院ノ會議ニ於テ表決ノ數ニ預カラス

第四十六條

常任委員會又ハ特別委員會ヲ開クトキハ
毎會委員長ヨリ其ノ主任ノ國務大臣及政
府委員ニ報知スヘシ

第四十七條

議事日程及議事ニ關ル報告ハ議員ニ分配
スルト同時ニ之ヲ國務大臣及政府委員ニ
送付スヘシ

相

密

院

相

密

院

第十章 質問

第四十八條

兩議院ノ議員政府ニ對シ質問ヲ爲サルト
スルトキハ三十人以上ノ賛成者アルヲ要
ス
質問ハ簡明ナル主意書ヲ作り賛成者ト共
ニ連署シテ之ヲ議長ニ提出スヘシ

相

答

院

第四十九條

質問主意書ハ議長之ヲ政府ニ轉送シ國務大臣ハ直ニ答辯ヲ爲シ又ハ答辯スヘキ期日ヲ定メ若答辯ヲ爲サ、ルトキハ其ノ理由ヲ示明スヘシ

木

答

第

印

密

第

第 國務大臣
キハ質問ノ
為スコトヲ

又ハ答辯ヲ得サルト
付議員ハ建議ノ動議ヲ



相

答

議

第五十條

國務大臣ノ答辯ヲ得又ハ答辯ヲ得サルト
キハ質問ノ事件ニ付議員ハ建議ノ動議ヲ
為スコトヲ得



相

答

院

林
智
院

第十一章 上奏及建議

第五十一條

各議院上奏セムトスルトキハ文書ヲ奉呈
シ又ハ議長ヲ以テ總代トシ謁見ヲ請ヒ之
ヲ奉呈スルコトヲ得
各議院ノ建議ハ文書ヲ以テ政府ニ呈出ス
ヘシ

百
五
十
一
號

第五十二條

各議院ニ於テ上奏又ハ建議ノ動議ハ三十人以上ノ賛成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

林
符
院

第十二章 兩議院關係

第五十三條

豫算ヲ除ク外政府ノ議案ヲ付スルハ兩議院ノ内何レヲ先ニスルモ便宜ニ依ル

林
竹
野

柑
密
院

第五十四條

甲議院ニ於テ政府ノ議案ヲ可決シ又ハ修
正シテ議決シタルトキハ乙議院ニ之ヲ移
スヘシ乙議院ニ於テ甲議院ノ議決ニ同意
シ又ハ否決シタルトキハ之ヲ奏上スルト
同時ニ甲議院ニ通知スヘシ
乙議院ニ於テ甲議院ノ提出シタル議案ヲ
否決シタルトキハ之ヲ甲議院ニ通知スヘ
シ

柑
密
院

第五十五條

乙議院ニ於テ甲議院ヨリ移シタル議案ニ
對シ之ヲ修正シタルトキハ之ヲ甲議院ニ
回付スヘシ甲議院ニ於テ乙議院ノ修正ニ
同意シタルトキハ之ヲ奏上スルト同時ニ
乙議院ニ通知スヘシ若シ同意セサルト
キハ兩院協議會ヲ開クコトヲ求ムヘシ
甲議院ヨリ協議會ヲ開クコトヲ求ムルト
キハ乙議院ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十六條

兩院協議會ハ兩議院ヨリ各十人以下同數ノ委員ヲ選舉シ會同セシム委員ノ協議案成立スルトキハ議案ヲ政府ヨリ受取り又ハ提出シタル甲議院ニ於テ先ツ之ヲ議シ次ニ乙議院ニ移スヘシ協議會ニ於テ成立シタル成案ニ對シテハ更ニ修正ノ動議ヲ爲スコトヲ許サス

第五十七條

國務大臣政府委員及各議院ノ議長ハ何時
タリトモ兩院協議會ニ出席シテ意見ヲ述
ルコトヲ得

和木
智
臣

第五十八條
兩院協議會ハ傍聽ヲ許サス

相本

答答

陽院

第五十九條

兩院協議會ニ於テ可否ノ決ヲ取ルハ無名
投票ヲ用ヰ可非同數ナルトキハ議長ノ決
スル所ニ依ル

権
密
院

第六十條

兩院協議會ノ議長ハ兩議院協議委員ニ於テ各一員ヲ互選シ每會更代シテ席ニ當ラシムヘシ其ノ初會ニ於ケル議長ハ抽籤法ヲ以テ之ヲ定ム

権
密
院

百
密
七

第六十一條

本章ニ定ムル所ノ外兩議院交渉事務ノ規程ハ其ノ協議ニ依リ之ヲ定ムヘシ

柳田
密
院

憲
法
院

第十三章 請願

第六十二條

各議院ニ呈出スル人民ノ請願書ハ議員ノ
紹介ニ依リ議院之ヲ受取ルヘシ

憲
法
院

第六十三條

請願書ハ各議院ニ於テ請願委員ニ付シ之
ヲ審査セシム
請願委員請願書ヲ以テ規程ニ合ハスト認
ムルトキハ議長ハ紹介ノ議員ヲ經テ之ヲ
却下スヘシ

第六十四條

請願委員ハ請願文書表ヲ作り其ノ要領ヲ
録シ每週一回議院ニ報告スヘシ
請願委員特別ノ報告ニ依レル要求又ハ議
員三十人以上ノ要求アルトキハ各議院ハ
其ノ請願事件ヲ會議ニ付スヘシ

第六十五條

各議院ニ於テ請願ノ採擇スヘキコトヲ議
決シタルトキハ意見書ヲ附シ其ノ請願書
ヲ政府ニ送付シ事宜ニ依リ報告ヲ求ムル
コトヲ得

第六十六條

法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ヲ除ク
外總代ノ名義ヲ以テスル請願ハ各議院之
ヲ受クルコトヲ得ス

柳
密
院

第六十七條

各議院ハ憲法ヲ變更スルノ請願ヲ受クル
コトヲ得ス

第百一十條

第百一十一條

第百一十二條

第百一十三條

第百一十四條

第百一十五條

第六十八條

請願書ハ總テ哀願ノ體式ヲ用ウヘシ若請
願ノ名義ニ依ラス若ハ其ノ體式ニ違フモ
ハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第六十九條

請願書ニシテ皇室ニ對シ不敬ノ語ヲ用井
政府又ハ議院ニ對シ侮辱ノ語ヲ用井ルモ
ハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第七十條

各議院ハ司法及行政裁判ニ干預スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ス

第七十一條

各議院ハ各別ニ請願ヲ受ケ互ニ相干預セ

ス

第十四章 議院ト人民及官廳地方議
會トノ關係

第七十二條

各議院ハ人民ニ向テ告示ヲ發スルコトヲ
得ス

第七十三條

各議院ハ審査ノ爲ニ人民ヲ召喚シ及議員
ヲ派出スルコトヲ得ス

第七十四條

各議院ヨリ審査ノ爲ニ政府ニ向テ必要ナル報告又ハ文書ヲ求ムルトキハ政府ハ秘密ニ涉ルモノヲ除ク外其ノ求ニ應スヘシ

第七十五條

各議院、國務大臣及政府委員、外他ノ官
廳及地方議會ニ向テ照會往復スルコトヲ
得ス

第十五章 退職及議員資格ノ異議

第七十六條

衆議院ノ議員ニシテ貴族院議員ニ任セラレ又ハ法律ニ依リ議員タルコトヲ得サル職務ニ任セラレタルトキハ退職者トス

第七十七條

衆議院ノ議員ニシテ選舉法ニ記載シタル
被選ノ資格ヲ失ヒタルトキハ退職者トス

第七十八條

衆議院ニ於テ議員ノ資格ニ付異議ヲ生シ
タルトキハ特ニ委員ヲ設ケ時日ヲ期シ之
ヲ審査セシメ其ノ報告ヲ待テ之ヲ議決ス
ヘシ

第七十九條

裁判所ニ於テ當選訴訟ノ裁判手續ヲ爲シ
タルモノハ衆議院ニ於テ同一事件ニ付審
査スルコトヲ得ス

第八十條

議員其ノ資格ナキコトヲ證明セラレ、ニ
至ルマテハ議院ニ於テ位列及發言ノ權ヲ
失ハス但シ自身ノ資格審査ニ關ル會議ニ
對シテハ辯明スルコトヲ得ルモ其ノ表決
ニ預カルコトヲ得ス

憲法
第四
條

憲法
第四
條

第十六章 請暇辭職及補闕

第八十一條

各議院ノ議長ハ一週間ニ超エサル議員ノ
請暇ヲ許可スルコトヲ得其ノ一週間ヲ超
エルモノハ議院ニ於テ之ヲ許可ス期限十
キモノハ之ヲ許可スルコトヲ得ス

第八十二條

各議院ノ議員ハ正當ノ理由ヲ以テ議長ニ
届出スシテ會議又ハ委員會ニ闕席スルコ
トヲ得ス

第八十三條
衆議院ハ議員ノ辭職ヲ許可スルコトヲ得

憲法
第五
條

衆議院
議員
ノ
辭職
ヲ
許
可
ス
ル
コ
ト
ヲ
得

第八十四條

何等ノ事由ニ拘ラス衆議院議員ニ關員ヲ
生シタルトキハ議長ヨリ内務大臣ニ通牒
シ補闕選舉ヲ求ムヘシ

相
符
院

第十七章 紀律及警察

第八十五條

各議院開會中其ノ紀律ヲ保持セムカ爲内
部警察ノ權ハ此ノ法律及各議院ニ於テ定
ムル所ノ規則ニ從ヒ議長之ヲ施行ス

相
符
院

第八十六條

各議院ニ於テ要スル所ノ警察官吏ハ政府
之ヲ派出シ議長ノ指揮ヲ受ケシム

第八十七條

會議中議員此ノ法律若ハ議事規則ニ違ヒ
其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ルトキハ議長ハ之
ヲ警戒シ又ハ制止シ又ハ發言ヲ取消サシ
ム命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議
ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ
退去セシムルコトヲ得

第八十八條

議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ
當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコト
ヲ得

第八十九條

傍聽人議場ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議
長ハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テ
ハ之ヲ警察官廳ニ引渡サシムルコトヲ得
傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽
人ヲ退場セシムルコトヲ得

第九十條

議場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ國務大臣
政府委員及議員ハ議長ノ注意ヲ喚起スル
コトヲ得

相
密
院

相
密
院

相
密
院

第九十一條

各議院ニ於テ皇室ニ對シ不敬ノ言語論說ヲ爲スコトヲ得ス

相
密
院

第九十二條

各議院ニ於テ無禮ノ語ヲ用ヰルコトヲ得
ス及他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得
ス

第九十三條

議院又ハ委員會ニ於テ誹毀侮辱ヲ被リタ
ル議員ハ之ヲ議院ニ訴ヘテ處分ヲ求ムハ
シ私ニ相報復スルコトヲ得ス

第十八章 懲罰

第九十四條

各議院ハ其ノ議員ニ對シ懲罰ノ權ヲ有ス

第九十五條

各議院ニ於テ懲罰事犯ヲ審査スル爲ニ懲罰委員ヲ設ク
 懲罰事犯アルトキハ議長ハ先ツ之ヲ委員ニ付シ審査セシメ議院ノ議ヲ經テ之ヲ宣告ス
 各委員會又ハ各部ニ於テ懲罰事犯アルトキハ委員長又ハ部長ハ之ヲ議長ニ報告シ處分ヲ求ムヘシ

第九十六條

懲罰ハ左ノ如シ

- 一 公開シタル議場ニ於テ譴責ス
 - 二 公開シタル議場ニ於テ適當ノ謝辭ヲ表セシム
 - 三 一定ノ時間出席ヲ停止ス
 - 四 除名
- 衆議院ニ於テ除名ハ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ之ヲ決スヘシ

第九十七條

衆議院ハ除名ノ議員再選ニ當ル者ヲ拒ム
コトヲ得ス

第九十八條

議員ハ二十人以上ノ賛成ヲ以テ懲罰ノ動議ヲ爲スコトヲ得
懲罰ノ動議ハ事犯アリシ後三日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第九十九條

議員正當ノ理由ナクシテ勅諭ニ指定シタル期日後一週間内ニ召集ニ應セサルニ由リ又ハ正當ノ理由ナクシテ會議又ハ委員會ニ闕席スルニ由リ若ハ請暇ノ期限ヲ過キタルニ由リ議長ヨリ特ニ招狀ヲ發シ其ノ招狀ヲ受ケタル後一週間内ニ仍故ナク出席セサル者ハ貴族院ニ於テハ其ノ出席ヲ停止シ上奏シテ勅裁ヲ請フハク衆議院ニ於テハ之ヲ除名スヘシ

桐
名
臣